

3. 活動内容

I. 研究主題

児童の自尊感情と郷土愛を養い、
心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ
～自主性、協調性があり、自律できる児童の育成～

キーワード：E S D（持続可能な開発のための教育）、国際理解、多文化共生、
地域教材、コミュニケーションスキル、ストレスマネジメント

II. 研究主題設定の理由

大阪市生野区。人口の5分の1が在日韓国朝鮮人であるこの町の中心に位置する本校は、日本で一番大きな 코리아タウンのすぐ南に位置する。この町は古来から「猪飼野」と呼ばれ、学びの素材が豊富にある町である。

このような環境にある本校は、長年民族学級との連携を密に、多文化共生教育に取り組んできた。生まれ育った環境は、子どもたちの発達に大きな影響を与える。毎日、何気なく見過ごしていたものの中に、自分を取り巻く人々の中に自分のアイデンティティーを確立し、自尊感情を高めてくれる素晴らしい「出会いの場」があると考えた。そして、ここに住む子どもたちは、誰もが未来を創造する「発信者」であると考え研究を進めた。

III. 研究の目的

本研究を進める目的は、以下の3点である。また、これらの能力・態度を育成するための素地を5つ考えた。

① E S D（持続可能な開発のための教育）が重視する能力・態度のうち、以下の4点を重点的に身につけさせる。

- ・コミュニケーションを行う力
- ・他者と協力する力
- ・つながりを尊重する力
- ・進んで参加する態度

「学校における持続可能な開発のための教育（E S D）に関する研究中間報告書」（2012年11月）の中で身につけたい能力・態度のうち、上記の4点が児童の自主性や協調性を養ううえで重要と考えた。

《身につけさせたい素地》

- ・民族的アイデンティティー
- ・自尊感情の育成

② コミュニケーションスキルの基礎となる国語力を育成する。

本研究とは別に国語科の研究にも取り組み、表現力を発信する場を設け、子どもたちが感じたこと、学んだことを発表する場を設定し、国語力の育成を図った。

《身につけさせたい素地》

- ・真のコミュニケーション能力の育成
- ・建設的妥協案（おりあい力）

③ 児童にストレスマネジメントスキルを身につけさせる。

ストレスマネジメントの授業を実施し、子どもたちにストレスと向き合い、上手に付き合うことを考える時間を設けた。このことは、子どもたちの自尊感情をはぐくむことに大きく関係すると考えた。

《身につけさせたい素地》

- ・レジリエンスの育成

IV. 研究のイメージ

御 幸

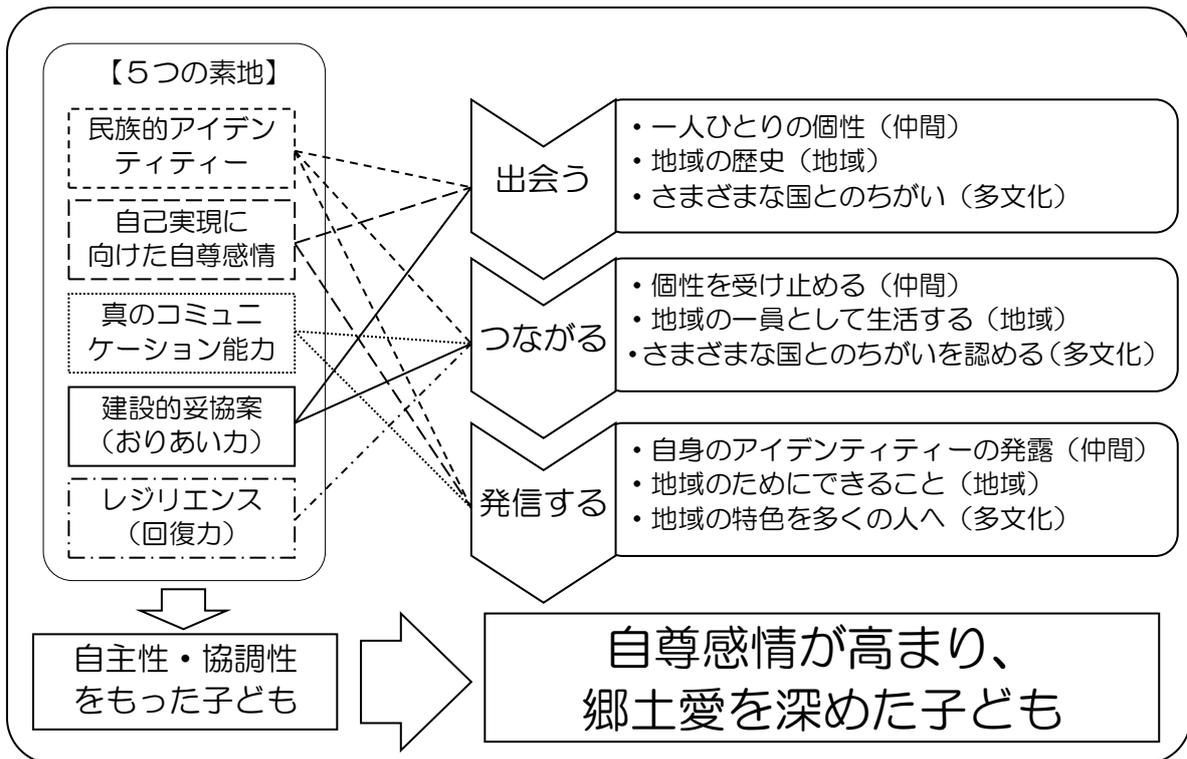


古代、仁徳天皇がおとずれ、鷹狩りの休息に立ち寄ったと言われる御幸森。ここで渡来人と出会い、つながりをもった。そして、この地からさまざまな技術が発信され、その系譜は今なお引き継がれている。

わたしたちは、由緒あるこの御幸森という名前から「森」の木の本一本に、「出会う」「つながる」「発信する」というテーマを設け、本校の特色ある取り組みに照らし合わせた。

【御幸森の3つの木】





また、本校のさまざまな特色ある取り組みが、先に紹介した5つの素地を育むことに効果があると考えた。この5つの素地が、子どもたちが自分で考え行動すること、仲間とともに協力することに必要である。そこに本校の特色ある取り組みをつなぎ合わせ、子どもたちに実施してきた。

これを基盤にして、自分のことを語ることができ、地域のためにできることを考え、そのことを発信することができる子どもたちの育成を目指し、研究を進めた。

V. 特色ある取り組み

活動名	日韓茶道体験						
対象	仲間	地域	多文化	かかわり	出会う	つながる	発信する
ESDの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・つながりを尊重する力 		内容	日本と韓国両国の茶道を体験し、ちがいや似ている点に気づくことができた。また、どちらの茶道にも根底に流れているのは、相手をもてなす気持ちであることに気づくことができた。			
活動の様子	【 韓国茶道 】			【 日本茶道 】			
							

活動名	ゲストティーチャー		
対象	仲間 <u>地域</u> 多文化	かかわり	<u>出会う</u> つながる 発信する
ESDの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・つながりを尊重する力 ・進んで参加する態度 	内容	地域に精通した方や多文化共生にかかわる方を中心に、多岐にわたった人材を招へいた。「ほんまもん」と出会うことで、授業だけでは感じることのできない貴重な体験を数多くすることができた。
活動の様子	<p>【太鼓職人】</p> 	<p>【戦争被災者聞き取り】</p> 	<p>【さをり織り】</p> 

活動名	芸術鑑賞会		
対象	仲間 地域 <u>多文化</u>	かかわり	<u>出会う</u> つながる 発信する
ESDの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・<u>つながりを尊重する力</u> ・進んで参加する態度 	内容	伝統芸能から民族音楽まで多様な文化に触れ、子どもたちの情操を養った。
活動の様子	<p>【建国中高等学校伝統芸術部】</p> 	<p>【弥栄神社 鶴橋若仲会】</p> 	

活動名	小学校体験DAY		
対象	<u>仲間</u> 地域 多文化	かかわり	出会う <u>つながる</u> 発信する
ESDの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・<u>つながりを尊重する力</u> ・進んで参加する態度 	内容	小学校の体験授業をとおして、年長児の小学校入学への不安を緩和する。本校の子どもたちは、新しく仲間を迎え入れる心構えができた。
活動の様子			

活動名	JICA防災訓練		
対象	仲間 地域 多文化	かかわり	出会う つながる 発信する
ESDの視点	コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・つながりを尊重する力 ・進んで参加する態度	内容	JICAが招いた開発途上国の消防・救急隊員の指導で防災訓練を行った。訓練の合間には、各国の隊員とあいさつを交わしたり質問をしたりして、交流を深めることができた。
活動の様子			

活動名	朝鮮学校との交流会		
対象	仲間 地域 多文化	かかわり	出会う つながる 発信する
ESDの視点	・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 つながりを尊重する力 ・進んで参加する態度	内容	近隣の朝鮮学校と交流し、相互理解を深める。3・4年生は互いの学校を行き来し文化交流を、6年生は朝鮮高級学校ラグビー部を招き、ラグビー体験を行った。
活動の様子			

活動名	フィールドワーク講師		
対象	仲間 地域 多文化	かかわり	出会う つながる 発信する
ESDの視点	コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 ・つながりを尊重する力 ・進んで参加する態度	内容	社会見学や修学旅行、研修会などでコリアタウンを訪れる小中学生や教職員を対象に、猪飼野地域周辺の歴史について解説。
活動の様子			

活動名	外部機関による視察		
対象	仲間 地域 <u>多文化</u>	かかわり	出会う つながる <u>発信する</u>
ESD の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する力 <u>・つながりを尊重する力</u> ・進んで参加する態度 	内容	本校を研修の場として、取り組みや実践について学び、研究する学生や外部機関が増える。本校では実践を発信する場ととらえ、重要視してきた。
活動の様子			

【本校訪問校及び諸機関・諸団体】（2016年度）

月	日	曜	団体名	対象	内容	種別
6	22	水	大阪市立大隅西小学校	児童	授業	コ
7	20	水	大阪市立木津中学校	教職員	研修	コ
	21	木	大阪市立北中島小学校	教職員	研修	外
	27	水	大阪市立喜連西小学校	教職員	研修	コ
8	22	月	大阪市教職員2年次研修	教職員	研修	外・コ
	30	火	桜井市立朝倉小学校（奈良）	教職員	研修	ユ・外・コ
9	14	水	尚絅大学（宮城）	学生	研修	外
	16	金	東大阪市立小阪中学校	生徒	授業	外・コ
10	13	木	大阪市立大領小学校	児童	授業	コ
	24	月	大阪市立波除小学校	児童	授業	コ
11	10	木	大阪市立鶴見橋中学校	生徒	授業	コ
	17	木	大阪観光大学	学生	研修	外
12	2	金	大阪市立矢田南中学校	生徒	授業	コ
1	13	金	大阪市立遠里小野小学校	児童	授業	コ
	19	木	大阪市立生野南小学校	児童	授業	コ

※2017年1月31日現在

【種別について】

- ユ ⇒ ユネスコスクールについて、本校の取り組みの紹介
- 外 ⇒ 外国人教育についての取り組み紹介
- コ ⇒ コリアタウンや猪飼野の歴史についての解説

VI. 日々の実践

1. 国語科を中心にした研究活動

本校では今回の研究と並行して、年間を通して国語科の研究を進めてきた。

「豊かなコミュニケーション力を育む言語活動をめざして」というテーマを設定し、物語文の読み取りを中心に研究を進めた。

低学年では、主に劇化することで登場人物の心情に迫り、なぜそのように考えたのかということペアやグループで話し合わせた。

中学年や高学年では、場の設定を工夫し、少人数で学習を進めた。読みを深めるために、一人ひとり課題を設定し、読み合う活動を行った。また、全学年が児童集会や終業式の際、全校児童の前で音読発表会を行った。大きな声で発表することや、身振り手振りをつけて発表することなどで表現力の育成を図った。



2. 読書活動

本に慣れ親しむために様々な読書活動を行ってきた。現在の蔵書数は、5700冊になり、児童一人当たりになると、58冊ずつもの書籍を一人で読めることになる。また、学校図書館活用推進事業により、週1回学校図書館補助員が図書室に在室し、図書室整備や、貸し出し手続き、読み聞かせ活動の一端を担い、読書の好きな児童の育成の手助けとなっている。

【読書タイム】

【読書コーナー】

【図書室開放】

【読み聞かせ】



3. 民族学級・ユネスコタイム

本校には朝鮮半島にルーツのある児童が多数在籍する。その児童を対象に週に1時間、各学年でことばや文化などを学習している。また、民族学級の時間が課外に実践されていたので、民族学級に在籍していない児童は下校していたが、2014年より4年生以上の学年で民族学級の時間と並行して国際理解の時間「ユネスコタイム」を設定した。世界の文化や習慣を学んだり、身近な外国にルーツのある仲間のことを考えたりする時間となっている。

また、本校では教科と関連付けて年間指導計画を立て、外国人教育・多文化共生教育を学級担任が中心となり活動をすすめている。



Ⅶ. 成果と課題

1. 過去の研究発表から（課題について）

2012年10月、本校がユネスコスクールに認定されてから研究発表会やセミナーでこれまでの取り組みについて報告を重ねてきた。その際、以下のような課題を提示し、その課題の解決に向けて取り組みを進めた。

過去の研究発表より【課題】

- ・小中幼保の連携
 - ・研究者、NGO、NPO等の協力
 - ・地域学習教材の整備
 - ・教育内容を公開
 - ・自尊感情を育む取り組みの工夫
 - ・教職員研修の内容の工夫
- (2012年2月3日学校公開より)

- ・言語活動の充実
- ・ESDカレンダーのアップデート
- ・本名を呼び名のる実践
- ・地域教材の開発・作成

(2014年11月29日
ユネスコスクールセミナーより)

2. 研究の成果

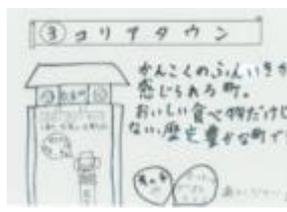
①小中幼保の連携

中学校との縦のつながりと小学校の横のつながりを深めていくことが重要という考えで、近隣4校合同で外国人教育についての研修会や相互授業見学を行うことができた。また、同一中学校に進学する中川小学校とは第6学年で、学期に1回交流会を実施することができた。スポーツ交流や合同プレゼンテーション、卒業遠足をともに実施することで中学校への入学の不安を解消することができた。保育園とは、先にも紹介した小学校体験DAYを実施し、小学校入学に対する不安を解消することができた。さらに、本校に入学する子どもたちが多くいる近隣の幼稚園、保育園に本校の学校だよりを持参し、保護者や教職員に本校の様子について発信することができた。

②地域教材の作成・改定

先に紹介した「特色ある取り組み」の中で、フィールドワークや社会見学で本校を訪れる学校や諸団体が多いことを説明した。その際、コリアタウンのフィールドワークを行うことも多いのだが、これまで使用してきたフィールドワークマップは大人向けの内容だったため、子どもたちが使うためには不向きだった。

そこで、本校の子どもたちが自ら猪飼野コリアタウンの魅力を紹介できるよう、紹介したい場所を絵に描き説明文も平易に書き換えることにした。子どもたちは、自分たちで書き換えたことでさらに自分たちの町のことを知り、郷土愛を深めることができたようだった。



③教職員研修の充実

ESDの取り組みを進めるにあたって、子どもたちだけではなく教職員も頻りに研修会を行い、研鑽を積んだ。コリアタウン以外の大阪の魅力に迫るフィールドワークをしたり、各教職員が交代して講師となって英語や図画工作科、タブレットや国際理解教育の研修会を定期的開催したりしてさまざまな研修を行うことができた。

④公開授業・研究発表の実施

ユネスコスクール5年間の取り組みを振り返り、本校の実践を発信するために、11月25日（金）に全学年で公開授業を行い、研究発表を開催することができた。

3. 研究の課題

①地域・家庭とのさらなる連携

子どもたちの学校でのがんばりが家庭で称賛されていないことがわかった。効果的に子どもたちのがんばりを家庭に届け、目に見えるような発信手段を考えなければならない。また、地域と学校をつなぐ新たな取り組みを模索しなければならない。

②身についた力（ストレスマネジメント、コミュニケーションスキル等）を発揮する場の設定

今やっていることがどのような力になるのか、子どもたちに見通しをもたせて取り組むことの必要性を感じた。

③教職員研修のさらなる充実

これまで以上に教職員の技量を高め、さまざまなことに対応できるような研修を企画していくことが必要になっている。

④ユネスコスクールとしての発信

本校が長年取り組んできた「多文化共生教育」「国際理解教育」を他校や他の機関に発信し、ESDの推進校としての役割を果たしていくことが、これまでの本校の研究を支えてくれた方々への恩返しになると考える。また、「地域理解教育」を実践の中に組み込み、町ぐるみでユネスコスクールの取り組みを行う方策を考えていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施 ※本校では「ユネスコタイム」として実施。
- その他